

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	言語教育研究センター
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。

A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 全学的に学生の英語運用能力向上を目指し、英語インテンシブ・プログラムのクラス数を3年以内に2割増加させる。	→多言語・多文化の視野に立った学部横断的な言語教育のメニューを提供する。	A	A	A		
2. 英語、フランス語、ドイツ語、中国語、朝鮮語、スペイン語、日本語の教育と研究に関する共同研究の実施。	→「言語コミュニケーション教育ならびに言語教育のカリキュラム・教材の開発と研究」をテーマとした、各言語部会における共同研究成果の公表、『センター研究年報』の発行。言語教育に係る専任教員の成果公表、『言語と文化』の発行。	A	A	A		
3. 選択必修科目としての中国語、朝鮮語、スペイン語、日本語の全学提供体制を見直す。	→全学提供体制をとる言語の体制の充実・改善。(履修希望者数、開講クラス数を指標として)	B	B	A		
4. 多言語・多文化の視野に立った学部横断的な言語教育のメニューを提供する。	→12種の選択言語の提供。インテンシブ・プログラムを含む全学的な言語教育活動を紹介するパンフレットの作成と配布。	A	A	A		

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価			
		2010	2011	2012	2013
5. 『英語コミュニケーション文化』副専攻プログラム履修者の修了率を、現行の2倍に高める。	→履修者のプログラム修了率	B	B		
	→				

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	英語インテンシブ・プログラムは、2013年度に新たに2レベルを新設し、5レベルの習熟度別語学教育に拡大することになった。すなわち、プレインターミディエイトおよびスーパーアドバンストを新設する。前者は、英語力中位層全体の底上げを図り、IEP 受講レベルに達することを目的としている。また、後者（TOEFL550点・TOEFL750点以上）は、帰国生徒、留学経験者および上位学習者に対する高次学習の機会と考えている。
目標2	各言語部会においては、効果的な言語教育のための、カリキュラムと教材の開発に関する共同研究を実施し、例年その成果を主に『言語教育研究センター研究年報』などの雑誌において報告している。2012年に刊行された年報では計10件の研究報告が行われている。
目標3	全学提供体制をとる中国語、朝鮮語、スペイン語、日本語の全学提供体制の充実を図るべく、その一環として、2011年に留学生（学部・大学院あわせて600名近く在籍）への日本語教育を全学的な視野で企画し提供する目的で、日本語教育センターが開設された。
★ 目標4	英語、フランス語、ドイツ語のインテンシブ・プログラムや選択外国語科目（フランス語、ドイツ語、ロシア語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、アラビア語、中国語、朝鮮語、インドネシア語）を開講することで、学部横断的なメニューを提供している。
目標5	複数分野専攻制の「英語コミュニケーション文化」副専攻プログラムについて、履修者の修了率を高めるため、修了要件の見直しを含む改革を2011年4月に完了している。
備考	